平成29年度 ミニレター 1月号

◆１ページ
・研修紹介
（子どもの学習意欲を高める授業探究研修）
・学校紹介（牛田中学校）

◆２ページ
・授業づくりシリーズ
学ぶ意欲が高まる授業を目指して
（小学校理科編）
・教育センター情報
（教育研究紹介等）

研修紹介 子どもの学習意欲を高めるために～10名の挑戦～

子どもの学習意欲を高める授業探究研修

本研修は,「学習意欲が高まる授業とはどんな授業か」について，小学校５名・中学校５名，計10名の先生が，１年間，広島大学 柳瀬 陽介 教授の御指導とセンター指導主事のサポートを受けながら，自分なりの答えを求めて，授業を探究している研修です。今回は，10名の先生の中から，古田小 岩岡 英俊 教諭の取組を通して紹介します。

【研修の概要】

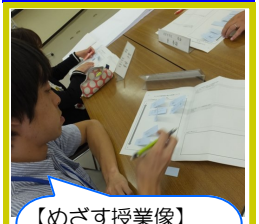
めざす授業像の確立
①6/15　学習意欲が高い授業のイメージを交流
②7/7　実践から見えたことの交流

課題の把握と改善の方策づくり
③7/24　ビデオリフレクションで課題確認
④8/25　課題解決の方策の検討
⑤9/13　具体案の検討

⑥授業と振り返り

更なる授業改善の方向性の明確化
⑦12/26　成果の交流と次の改善の方向性の検討
⑧2/23　授業２回目の交流と１年間のまとめ

【岩岡教諭の取組】



【めざす授業像】
児童が自然に，「もっと読みたい」とか「もっと話し合いたい」と取り組む授業がしたいなあ。

【課題】
自分の授業の課題は，めざす目的を子どもが理解していないところだ。

【改善授業の方向性】
導入→今日考えていくことについて問題意識をもたせる
展開→達成できそうな小さな目標を繰り返してねらいに迫ること
終末→肯定的に学習を振り返ること

日時：11月２日（木）
３校時
内容項目：生命の尊さ
題 材 名：ヒガンバナ

【振り返り】
・子どもによって,意欲が高まる場面は違った。
・その中で，多くの子どもが意欲的になった場面は，「小さな目標を繰り返したところ」と「教材が自分ごとになったところ」だった。
→意欲の高まりは子どもごとに違うので,一斉授業の中では意欲を高めるためのいろいろな仕掛けが必要になる.次は一人の子どもに焦点を絞って,何が有効か取り組んでみたい。

学校紹介 組織的なインクルーシブ教育の推進

牛田中学校

牛田中学校では，学校教育目標実現のための具体的方策として，「すべての生徒が学びを深めることができる授業づくり」，「たくましく生き合う生徒の育成」を掲げ，その実践のために「牛田デザインプロジェクト（ＵＤＰ）」を組織してインクルーシブ教育を推進しています。
今回は，「牛田デザインプロジェクト（ＵＤＰ）」が作成した「牛田デザイン（ＵＤ）」の視点と情報共有のための具体的な方策である「サポート日誌」について紹介します。

「牛田デザイン（UD）」の視点

【全校教職員で取り組む基礎的環境整備】
すべての生徒の学びを深めるためのUD（牛田デザイン）の視点

安心して学べる学校環境・教室環境
＝ 心理的安定・理解・意欲の喚起・注意集中・作業スキル

① 対話を促進させる手立て－席は男女の市松、ペア・グループの配置の工夫はされているか。
② 視覚環境・聴覚環境－黒板・掲示物・音の制御は適切であるか。
③ 学習のマナー（着ベル・あいさつ・聞く等）はできているか。
④ 整然とした教室－生徒ロッカーの整理、机の整理整頓等ができているか。

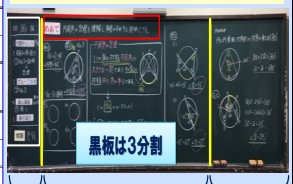
授業でのつまずきを支援する工夫

1 焦点化
＝見通し・探究・心理的安定・注意集中・意欲の喚起
① 授業の「めあて」を示すとともに「まとめ」が行われているか。
② 生徒の意欲を引き出す適切な「めあて」（探究的な学習課題）が設定されているか。

2 共有化
＝理解の促進・聴き合う関係づくり・理解・注意集中
① 学び合うために毎授業グループ・ペア学習を取り入れているか。
② 生徒のつぶやきや発言を《聴く・つなぐ・戻す》をケアし、対話的な対応ができているか。

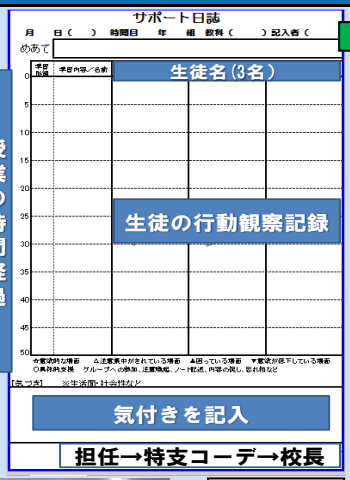
3 視覚化・聴覚化
＝認知特性に応じた指導・注意の選択・集中・短期記憶・予測の支援
① ICT、フラッシュカード、具体物等を活用しているか。
② 板書等に視覚的な手がかりを用いているか。
③ 説明・指示・発問を簡潔にできているか。

年度当初の研修会で，左記の内容について具体的なイメージを共有し，共通理解を図る。
（下の図は，視覚的な支援により，注意集中できるよう配慮した板書の例です。）



授業の流れと宿題の確認　板書（ノートに写す）　メモ＋αの内容

情報共有のための「サポート日誌」



ファイリングして共有

授業中に授業者以外の教員が記録

Aくんは，指示を聞き逃した時があったけど，板書があったから後からでも確認して活動できていました。

視覚的な支援があるとAくんにとって学びやすくなりますね。

～子どもの心に火をつける～

学ぶ意欲が高まる授業を目指して

子どもたちの**「学ぶ意欲」**を高めるためには，学習過程の中の「導入場面」「課題認識場面」「課題解決場面」「振り返り場面」の中で，子どもが主体的になれる活動を仕組むことが重要です。
今回は，導入場面と課題認識場面に焦点を当て問題解決の見通しをもたせた実践事例を紹介します。

導入場面 課題認識場面　問題解決の見通しをもたせる工夫　小学校理科編

理科の学習は，観察や実験の活動が多いため，熱心に取り組む様子が見受けられます。しかし，活動が主となってしまうと，学習内容が定着しないことも課題として指摘されています。改善に向けては，児童の主体的な活動を目指すことが大切で，そのカギは，導入場面から問題を意識化し，解決の見通しをもつことにあります。
今回は導入場面から課題認識場面において，①問題の意識化，②視点の明確化，③考えの整理・深化の３点について工夫した実践事例を紹介します。

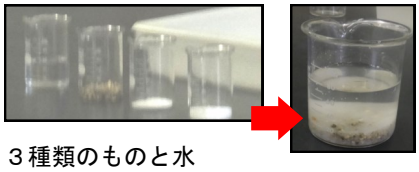
小学校　第５学年
「もののとけ方」
本川小学校
古石 卓也 教諭
の実践より

導入場面

工夫①
問題の意識化

実物を観察できるように用意し，児童自らが問題を見いだせるようにする。

○問題　**砂，食塩，ミョウバンの混ざった液から，なるべく多くのミョウバンの結晶を取り出すにはどうしたらよいだろう。**



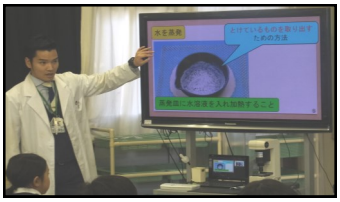
３種類のものと水

砂は溶けないから，ろ過すればいいね。でも，ミョウバンが溶け残っているから，どうしたらいいだろう。

工夫②
視点の明確化

既習内容を振り返り，整理することで，考える視点を明確にする。

○これまでの実験を振り返ってみよう



・物は水にとけても水の中に存在する
・物の性質によって水へのとけ方が違う

・水にとけたものととけなかったものを分ける方法
・水にとけたものを析出させる方法

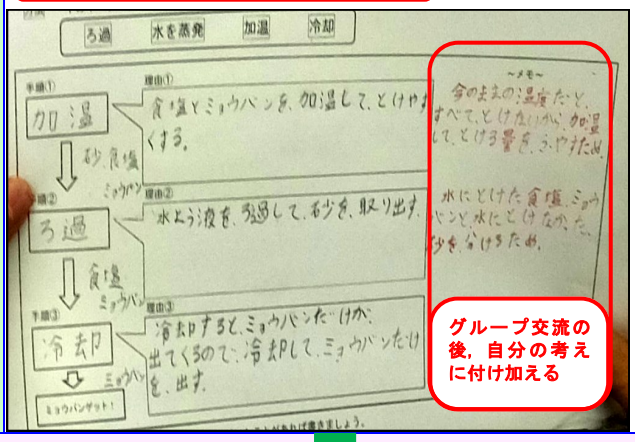
課題認識場面

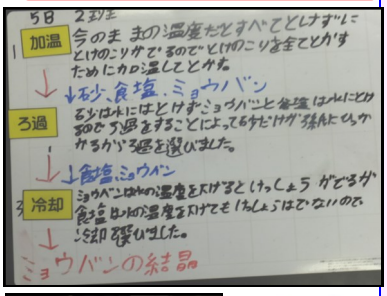
工夫③
考えの整理・深化

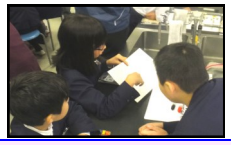
・ワークシートは，解決へ向けた手順とその理由のみ整理できるシンプルなものにする。
・交流結果を書くスペースを取る。

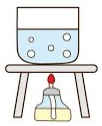
○実験の手順を考えよう　**質的・実体的な見方を働かせ，解決への手順やその理由を考える**

自分の考えた手順と理由を記入する → グループで考えを交流しまとめる









課題解決場面

解決への見通しをもって実験

おしらせ　教育センターはみなさんの自主研修をサポートします

教育研究紹介

教育センターでは，校内授業研究に関する教育研究を行っており，その成果物として，「校内授業研究『診断・評価指標（改訂版２）』」を作成しています。
教育センター内部Webページに掲載していますので，校内授業研究の成果を測る指標として，また，来年度の取組の参考資料として，ぜひご活用ください。

http://10.91.11.102/document/kenkyu/index_kounaiken.html

教育実践サポート

月１回の土曜開館の際に，指導主事に直接相談することができます。事前に予約することもできますので，ぜひ活用してください。

２月担当	担当業務
福原　宏	学校評価研修 外国語（英語）科　等